

会 議 結 果 報 告 書

令和 7 年 1 月 2 7 日

会 議 の 名 称	令和 6 年度 第 1 回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会	
種 別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開 催 日 時	令和 6 年 1 1 月 8 日 (金) 午後 2 時 57 分～午後 5 時 1 分	
開 催 場 所	舞鶴市総合文化会館 展示室	
出 席 者	舞鶴市部活動地域移行あり方検討会委員 8 名	
議 題	(1) 令和 6 年度の取組について ①実証事業 ②部活動地域連携のための説明会・意見交換会 ③ロードマップ (2) 舞鶴市部活動地域移行推進計画 (案) について ①計画 (案) の概要 ②今後の策定スケジュール (3) 意見交換	
公 開 の 区 分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍 聴 者 数	2 名	
審 議 結 果 及 主 な 意 見 等	● 保護者や先生等への説明会については、1 回で終わらず、複数回やるべき。 ● 地域クラブ活動に対し学校施設をどこまで貸せるかなど、一元管理する部署があると良い。 ● まちづくりの観点が入っているのが良い。部活動に端を発しながら、地域が一体となって協力体制を整えてほしい。	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備 考		

担 当 課	舞鶴市 教育振興部 学校教育課 TEL (0773) 66 - 1072
-------	---

令和6年度第1回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会 議事録

日 時：令和6年11月8日（金）午後2時57分～午後5時1分

場 所：舞鶴市総合文化会館 展示室

出席者：（敬称略）

役職	出席委員	団体の役職
会長	長積 仁	立命館大学 スポーツ健康科学部 学部長
委員	秋原 栄人	舞鶴市教育委員会指導理事
委員	白田 誠	舞鶴市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長
委員	鈴木 元	舞鶴ちゃったスポーツクラブ 会長
委員	高橋 てる恵	公益財団法人舞鶴文化教育財団 理事
委員	松林 周一郎	中学校体育連盟 会長
委員	森 隆	舞鶴市スポーツ少年団 本部長
委員	渡辺 弘	一般財団法人舞鶴市スポーツ協会 会長

欠席者：（敬称略）

役職	欠席委員	団体の役職
副会長	福本 浩介	中学校校長会
委員	清岡 大亮	舞鶴市PTA連絡協議会 副会長
委員	田中 重春	TOMA I スポーツクラブ 代表
委員	田中 美香子	舞鶴文化協会 副会長

【事務局】教育委員会4名、生涯学習部5名

【傍聴者】2名

会議録：

1. 開会挨拶（教育振興部長）

【長積会長】

報道もありご存知の方もいると思うが、国のワーキンググループ会議で「地域移行」という表現が、子どもたちの活動を学校から切り離すようなイメージとなってしまうことから、「地域展開」という言葉を使ってはどうかという話が出ている。この表現が良いかは別として、学校の部活動のみならず、地域で子どもたちの成長を支えていくというのがこの取組の目的。

なお国では、2026年度から平日の活動も地域展開していくと言われている。土日とか平日かということだけでなく、子どもたちが文化・スポーツ活動を楽しめる場を舞鶴市独自の形でいかに作るかということが大事。

委員の皆様には、団体の立場としてご意見をいただくということも大事だけれど、みなさん自身が舞鶴市民として、この活動にどう関わっていけるかをイメージしながら、参加していただきたい。

こういう新しい取組をするとき、行政が整えてくれるというイメージを持っていると思うが、舞鶴市の子どもたちを中心としながら、みなさんが関わってどんな仕組みを整えられるか、支えることができるのかを一緒に考えていきたいのでよろしくお願いしたい。

2. 議事

(1) 令和6年度取組について…事務局から説明

主な意見等は以下のとおり

- 休日の活動が従来の形でなくなるということだが、新しい形で子どもたちの活動を地域の方々と連携して保証していくことは変わらない。
- 現在の部活動は中体連の大会が目標になっているが、新しい形になった際に、については、中体連の大会が絶対ではないという考えも持っておきたい。
- 8月21日の指導者と顧問の意見交換会では、子どもたちの指導に関わっている者という共通点があり、話題が尽きないと感じた。今まで教師と指導者の間に一部壁があるということを感じることもあったが、良い機会となった。
- 保護者向け説明会は、理解を得る場を設けるのは大事だと思う。特に今の保護者の世代は、自分たちが中学生の時部活動を熱心にやってきた世代なので、学校に期待する声はまだある。
- 保護者や先生への説明会は複数回やるべきではないか。いろんな人を巻き込むためには、PRをもっとするべき。
- 指導者は有償か、ボランティアか。有償の場合、税務上の制約が出るのではないか。団体としても税務上何か必要な手続きが必要になるのではないか。→（事務局）現在の実証事業では、1時間あたり1,600円の謝礼は源泉徴収後の金額をお支

払いしている。団体については、現在自走している団体がどうしているのか研究が必要。

- 指導者をマネジメントすることについてはどうか。→（事務局）団体でトラブルがあった場合の指導的立場をどこに設けるか、とりまとめをする団体はどこが良いかなどは検討中。
- ロードマップを見ると、令和8年度2学期からは休日の活動を地域へとある。一方で国は2026（令和8）年度から平日もと言っている。舞鶴市はどうするつもりなのか。→（事務局）段階的と言っている通り、最終的には平日の活動も地域へと考えている。8年度はゴールではなく、新たなスタートになる。ただそのためには解決しなければならない様々な課題がある。
- 中体連でも少子化の影響があるが、生徒が参加できるように合同チームや、拠点校方式など工夫をして試合に出場はしている。
- 地域クラブを地区大会からというのも、そういう声の中体連に届いている一方で、中学校で頑張っている子どもたちにとって不利じゃないかという意見も強くある。
- 現在社会体育としてクラブ活動をしている団体の中には、指導者の謝礼なんかいないというところもある。自走するとなった場合、低額なクラブと高額なクラブが出来ることになると思う。子供が選ぶ時にそれが選択の理由になり差が生まれるのではないかと？→（長積会長）お金を取らないクラブが出ることは否定しない。保護者が費用面だけでなく、指導者の質や運営方針などを総合的に見て決めることになると思う。
- 学校施設をどこまで貸せるか。場所だけでなく、用具も貸すとなるのか。そういうことも含め、どこかが一元管理した方が良いのではないかと思う。

（2）舞鶴市部活動地域移行推進計画（案）について…事務局から説明

主な意見等は以下のとおり

- 部活動を「停止・廃止」という言葉がきつく感じるので、「新しい形へ」など、表現を修正した方が良いのではないかと。→（事務局）曖昧な書き方をすると、保護者の方に「結局どうなるのか分からない」と言われるのではないかという懸念もある。ご意見いただいたので検討したい。

- まちづくりの観点が計画に入っているのが良い。部活動に端を発しながら、まちづくりに結び付けてある。地域が一体となって協力体制を整えていってほしい。
- どういう形でしたいのかよく分からない。こういうふうにしたいと市が決められたら意見も出しやすいのではないかな。→（事務局）競技や活動によって、ベストなやり方は違うので、8月21日の説明会で競技ごとに集まって意見交換をしていただいた。市がこうしてくださいではなく、競技・活動によって良いやり方というのを模索してもらいたいと思っている。
- 計画（案）はうまく取りまとめていただいたと思う。
- 保護者の説明会では、「こんなふうに子どもたちの環境が良くなっていくんだよ！」というアピールができる資料で説明してほしい。進化を遂げるための施策だと分かるように。この取組は、課題が様々ありつつも、良い方向に進化するためのものだ。
- 部活動に様々な想いを抱いている保護者がいらっしゃる。部活動は「生徒指導」として価値があった。そこがどうなるかを気にされていると思う。→（事務局）部活動が人間形成をしていく上で重要な価値があった。それは地域クラブ活動へ継承される。今後学校は、部活動がなくても魅力ある学校運営をしていく必要がある。「総合的な学習」や「探究活動」などでそれを模索していくことになるだろう。
- 行政に「やってもらおう」ではなく、「地域で子どもたちを育てていく」という「当事者意識」を多くの人に持ってもらいたい。
- 様々な大人が子どもに関われるのが地域移行のメリット。多角的に子どもを見ることが出来る。それが自己肯定感に繋がる。非認知能力を高める取組になれば良いと思う。

3. 開会挨拶